

introduction

世界で初めて特発性大腿骨頭壊死症(osteonecrosis of the femoral head ; ONFH)に関する報告がなされたのが1957年頃とされています。以来, 60年余経過しました。近年の研究技術や画像診断の進歩により, 数多くの基礎・臨床研究が行われ, 本症に関する病態研究が格段に進みました。しかし, 現時点ではっきりとしているのは, ONFHは大腿骨頭の一部が虚血により壊死に陥った状態, すなわち, 「骨梗塞」である, ということです。そして残念ながら, その虚血に至る直接の原因はいまだわかっていません。

わが国では, 昭和50年(1975年)に当時の厚生省がONFHを難病指定しました。それに合わせて, 難病研究班も組織され, これまで46年にわたりオールジャパンでの学際的研究が精力的に脈々と続けられてきました。現在もわが国のONFHに関する研究は世界中から大きな注目を浴びています。

全国疫学研究により多くの疫学的特性が明らかにされ, 世界最大規模のゲノム研究により疾患感受性遺伝子も見出されました。診断基準や病型分類もわが国において作成され, 本症と鑑別を要する疾患の1つである大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折も提唱されました。さらに, 治療においても転子間内反骨切り術や回転骨切り術などの関節温存術が開発されました。また, 1996年より人工物置換術に対する症例蓄積が継続されており, 現在5,771関節にも及ぶ膨大なデータが蓄積されています。そして, 昨年に世界に先駆けて本症に対する診療ガイドラインも作成され, 『*Journal of Orthopaedic Science*』において英文化もされています。

このように, ONFHに関する基礎研究および臨床研究は, 世界においてわが国が最も進んでいるといっても過言ではありません。本特集では, 主にここ5年以内に得られた最新の研究成果を中心に, 各分野の専門家に解説していただきました。

本特集により, わが国における特発性大腿骨頭壊死症に関する最前線の基礎および臨床研究成果が整理されるとともに, これらの最新情報を共有する場となれば幸いです。

福岡大学医学部整形外科教室
山本卓明